

Part①

金融教育の現場レポート



埼玉県春日部市立武里中学校



小谷勇人教諭

中国ベンチャー企業から学ぶ起業家精神 グローバル人材の育成に つながる起業家教育を实践

「金融教育」は社会の中で生きる力を育むことを目的として行われる教育です。金融教育の授業がどのように進められているのか、先生や生徒の姿をレポートするこのコーナーで、今回は2校を紹介いたします。Part①では、小谷勇人先生が中国の青島日本人学校^{チンタオ}中学部へ赴任した時に実践し、「第18回金融教育に関する実践報告コンクール」で優秀賞を受賞した起業家教育です。中国ベンチャー企業と日本の企業の経営戦略の違いなどを通して、起業家精神の育成をめざした実践授業について、小谷先生にお話をうかがいました。



※https://www.shiruporuto.jp/education/contest/container/concours_kyoin/2021/pdf/21kyoin002.pdf (知恵の森WUBAサイト)

グローバル人材の育成を 意識した起業家教育を实践

中国山東省に位置する中国有数の港湾都市・青島市にある青島日本人学校は、小学部68人、中学部16人（2019年度）という少人数の学校となります。

小谷先生は社会科の派遣教員として、青島日本人学校に3年間勤務。研究・実践を積み重ねてきた起業家教育をブラッシュアップさせて、中学部3年生を対象に実践授業を行いました。

「日本の未来のためには、チャレンジ精神が旺盛で日本をたくましくリードできる人材を育む起業家教育が重要と考え、多くの実践に長年取り組んできました。そして赴任地の青島で、グローバル化が急激に進む世界の経済・社会の中で日本が活躍していくためには、主体性や協調性、責任感のあるグローバルな人材の育成が必要と強く感じ、その視点を強化した起業家教育の实践を行いたいと考えました」。

小谷先生はこの実践授業の題材として、中国経済や中国ベンチャー企業の経営戦略に着目しました。

「中国の、社会・経済を大きく変化するデジタルイノベーションを絶えず興す姿に私は驚き、起業家教育の实践に活用できないか模索していました。そして中国経済や、デジタルイノベ

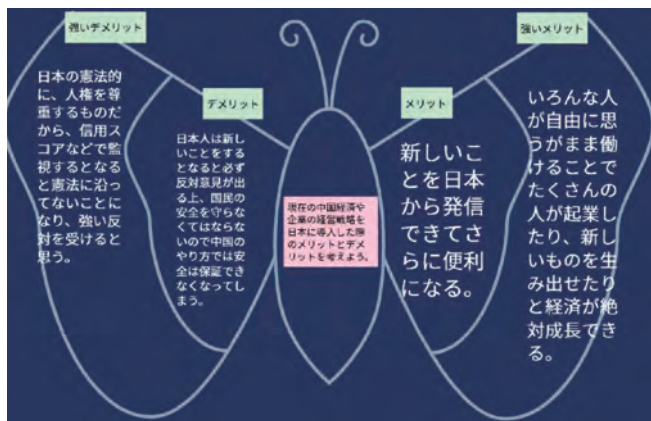
ションを興す中国ベンチャー企業の経営戦略を学び、日本との違いを考察し、日本に導入した場合の影響を考えさせる実践プログラムを作成しました」。

中国の経済とベンチャー企業の 経営戦略を学び、日本と比較

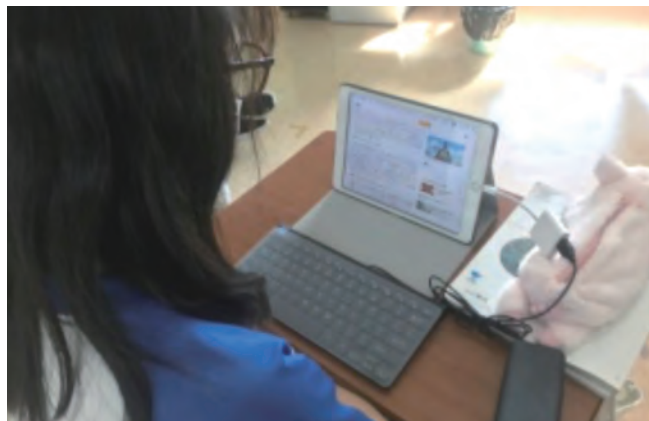
この実践は、経済単元の最後に行われる学習「これからの経済と社会」に、特設授業を組み込んだ4時間の授業として行われました。授業の大まかな流れや具体的な様子、学習効果などを紹介します。

中国経済の実情と中国ベンチャー企業の企業姿勢を学ぶ

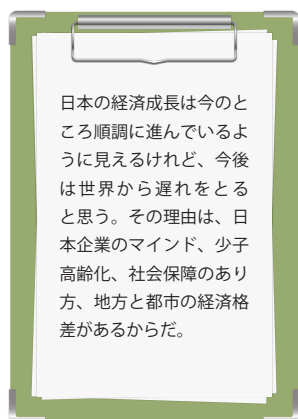
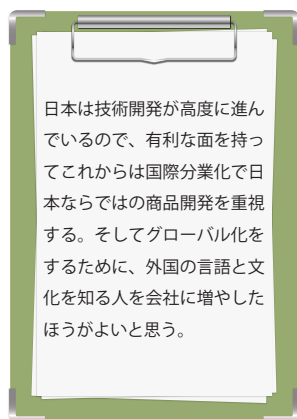
授業の導入では、2020年の中国のGDP成長率が主要国で唯一プラスだったことに触れ、コロナ禍で世界経済が疲弊している中、なぜ中国経済は乗り越えられたのかを考えさせました。その後、中国ベンチャー企業の経営戦略に話を展開させ、生徒たちは、商機があればコロナ禍ですらビジネスチャンスとする企業姿勢に驚きました。「生徒に発見や驚きを与え、興味や関心を高めることで、この実践が主体的な学びになるように導きました。中国ベンチャー企業の話で『まずは自由に』の精神と『失敗を悪としない』という価値観が企業の姿勢にあることを補足説明すると、生徒から『日本人が



生徒はバタフライチャートを使って、中国流の経営戦略を日本に導入した際のメリットとデメリットについて考えをまとめた



ICTを活用して資料を確認。コロナ禍の対策として、生徒との双方向的な授業を行える学習支援アプリを導入



学習課題「今後日本はどのように経済成長していくべきか」に対する生徒の論述例。生徒の変容がうかがえた



「中国では市場の隅々まで二次元バーコードが浸透している」といった、中国経済の実態を学ぶための資料

大切にしてきた仕事の価値観が、イノベーションへの足かせになっているのでは、『中国と日本の両方の良いところを見ていきたい』といった声が出ました。他国の経済や企業との比較を通して、多面的に日本経済や企業の実態を見て取ろうとする視点が生まれたと思います。

■課題「中国経済や中国ベンチャー企業の経営戦略を、日本に導入した際のメリットとデメリットを考える」

この授業では、現地の日系企業で働く日本人たちにお願したアンケートを活用しました。生徒はアンケート内容を読み込み、課題に関する自分の考えをバタフライチャートを使ってまとめました。

「アンケートでは『経済や企業の経営面で日本との違いに驚いた点』『中国企業の経営戦略で日本に導入すべき点と導入は難しいと思う点』をうかがいました。企業の第一線でグローバルに活躍している人たちの声を、生徒に聞かせられたことは、この実践において重要なポイントであり、深い学びになったと考えています」。

■単元課題「経済のグローバル化が進む中で、今後日本はどのように経済成長をしていくべきか」

これまでの学習のまとめとして、生徒に課題の内容を論述させました。

「経済学習のまとめに、未来の日本経済や企業の在り方を中学生なりに構想させることが、起業家精神を育むのに有効と考えました。論述の中には、『日本は安全性を大事にし過ぎて、色々な開発をする機会を失った』という非常に重い内容もあります。論述における生徒の成長を見て、今回の起業家教育の実践が、積極的にトライ＆エラーを繰り返しながら大きなイノベーションを興せるグローバルな人材の育成につながっていると実感しました」。

固定観念にとらわれず
グローバル人材育成を進める

中国より帰国した小谷先生は武里中学校に勤務し、今後さまざまな実践教育の取組みを考えています。

「金融教育に関しては、生徒が企画・制作した商品をネットショップで販売し会社経営を行う実践として、企業や専門家と協力して取り組みたいと考えています。またグローバル人材の育成は、これからの教育者にとって大きな使命の一つだと思います。教師も生徒も自分の中の固定観念や思い込みにとらわれず、アンテナを高くすることが世界で活躍できるように子どもたちを育成するための生きた教育につながっていくと信じ、子どもたちと向き合っていきたいと思います」。